

昭 50 8.22 発行

特許法第17条の2による補正の掲載
昭和46年特許第105119号(特開昭
47-13474号 昭和47年7月1日
発行公開特許公報 47-290号掲載)につ
いては特許法第17条の2による補正があったので
下記の通り掲載する。

庁内整理番号	日本分類
6465 54	102 K3
6465 54	102 K222
6329 52	102 K11

手続補正書

昭和46年5月1日

特許庁長官殿

1. 事件の表示
昭和46年特許第105119号
2. 発明の名称
音響電気変換器
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
氏 名 マダバシ、イシロー・アツツ
(名 義)
4. 代理人
氏 名 平100 東京都千代田区大塚二丁目3番1号
新大塚ビルディング3F
電 話 (03) 6081 (内 線)
(0000) 機 材 館
5. 補正命令の日付
昭和 年 月 日
6. 補正により増加する発明の数
7. 補正の対象 発明書の発明の名称の欄
特許請求の範囲の欄
発明の詳細な説明の欄
8. 補正の内容 別紙のとおり
9. 補正書類の提出 同時に特許請求書も提出してあります。



- (i) 発明の名称を下記の如く訂正する。
「音響電気変換器」
- (ii) 特許請求の範囲を別紙の如く訂正する。
- (iii) 本願明細書第1頁第4行の「電気変換器」の後に「音響」を挿入する。

特許請求の範囲を下記の如く訂正する。
各振動板が自由に振動するとともに少なくとも
1個の電気導体パターンを形成され、寸法の少な
くとも1つをゆるんだときに相対する寸法値を上
回る値まで増大させるだけ引張られるが、振動板
全体の共振範囲内で引張られる少なくとも1個の
可撓振動板と、動作の際に可撓永久磁石振板によ
って作られる磁界が各導体パターンに流れる電流
と相互に作用して各振動板を自ら方向にたわませ
るよう各振動板と相対される可撓永久磁石振板
と、を有する音響電気変換器。

1. 同漏 不足 大 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839.

[illegible][illegible]

し。この不変式で中心膜は、その原位置より
5%引伸せしむる弾性限度より保たれど、
膜を元の原位置より約1%延ばし、若干微
小波紋を移すことにより成功した。またこ
の永久限を引伸せしむより、10分より短く
一定の時間より達成すること、材料の延
力時間より一定の保たれど。

陽動線は、1/15 分の長さで幅 10 度以下
 にわかれて引伸ばさる。又、 α が 15 度より大
 陽動線は、唯一の方向に引伸ばさる。これら
 なる可成り小の方向性、 α が 15 度より大、
 直線部 20 分の長さで同じ位の幅を有する
 如きは、 α が正角に小さいので、陽動線は

換品 2 出力 12 可現用波数範圍 13.45, 13.12
- 1 表 2.5 中 .

[illegible]

つまり、この動（ $\pm \pi$ ）は比較的小さいとあることが分かる。

[illegible]

24-4. 214. 7. 218. 花柄板の取
付止：板11枚を右に示す引伸棒を以て中央部
に324を差込む。

火のあつた理をいふと、さういふ

[illegible]

可從「 π 」及「 π 」後邊各取一字，即得「 π 」字。

重量五倍月と時鋼のよるな 陽極性体の欠
ありたわたりハネルよと同一平面にある
欠のありたわたりすらんなり おゆさやまんり
い非焼結可焼 かつスチ、薄板磁石よとを
含む。かたハネルよは多くの場合めく
として加え、めくの全面にメニエをカバーし、
接着剤によつて スケレンヂウム化のかわりに研
磨で作りぬる インター・ストレーツには固
着せぬ。オス図をよく見られるとわう、
ハネルよはその上面から少しはむきよりは
やや凹形になつてゐる。ハネルよの厚さは
板端に磨粉心をはかり、約18〜20ミ
リの至鉛引も薄板金、すちあふ約 6.7g/cm

[illegible]

特許第1347(独)

硬化の際ハネレの上面にカサリが起る小隙

割キも同様で、ハネレの上面と同一平面

に面を引く、この場合ハネレの上面は

を削りハネレを凹形にする、ハネレの

可撓性部は、この凹形に適合する形状を

有し、圧迫したときハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

各面は、ハネレの凹形に適合する形状を

有し、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

入り、可撓性部はハネレの凹形に

特開2007-13474(7)

磁石の端に隣接する一対の磁石の間に、
磁石が入れられる。この磁石の間に、
その間隔は、可撓性磁石の磁石等の間
隔と、ほぼ等しい間隔が存在する必要がある。

振動板の振動は、磁石の端に約 0.1mm
(1mm) であり、可撓性磁石と振動板との
間隔は、可撓性磁石の中心と約 0.1mm 間
隔 (0.04mm) であり、振動板の端に約 0.1mm
(0.04mm) である。

この場合、可撓性磁石の端に約 0.1mm
の磁石が入れられ、可撓性磁石の下
側に磁石の間に磁石の端に約 0.1mm
の間隔は、可撓性磁石の端に約 0.1mm

23

この場合、磁石が入れられ、磁石の端に約 0.1mm
の間隔は、可撓性磁石の端に約 0.1mm

可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、
可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、
可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、
可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、

可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、
可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、
可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、
可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、

24

磁石の端に隣接する一対の磁石の間に、
磁石が入れられる。この磁石の間に、
その間隔は、可撓性磁石の磁石等の間
隔と、ほぼ等しい間隔が存在する必要がある。

この場合、可撓性磁石の端に約 0.1mm
の間隔は、可撓性磁石の端に約 0.1mm

25

この場合、磁石が入れられ、磁石の端に約 0.1mm
の間隔は、可撓性磁石の端に約 0.1mm

可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、
可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、
可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、
可撓性磁石の端に約 0.1mm の間隔は、

26

特開第47-13474号

であるので、振動板 31 の行程が大きいほど、出力が増加する。また、導体 31 の電圧の電圧と磁界との大きさ、導体 31 の長さの増加に伴って電流が増加する。

第 10 図に示すように、振動板 31 の導体 31 の両面に磁界が作用する。導体 31 の上下両面に磁界が作用する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。

27

導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。

第 10 図に示すように、振動板 31 の導体 31 の両面に磁界が作用する。導体 31 の上下両面に磁界が作用する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。

28

である。

第 10 図の振動板 31 の導体 31 の両面に磁界が作用する。導体 31 の上下両面に磁界が作用する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。

29

導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。

振動板 31 の導体 31 の両面に磁界が作用する。導体 31 の上下両面に磁界が作用する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。

第 10 図の振動板 31 の導体 31 の両面に磁界が作用する。導体 31 の上下両面に磁界が作用する。導体 31 の長さ、導体 31 の厚さ、導体 31 の電圧の増加に伴って、導体 31 の電圧と磁界との積が増加する。

30

2. 上面より、戦後知られたオロの植物種
 3. 1.5の陸力の下で加えられ、植物種36.5
 4. 多く可視限礫石36.5の反対で、 $\frac{1}{2}$ より
 5. $\frac{1}{2}$ より32.5まで引伸ばされる。植物種36.5
 6. 1.5の礫石36.5の取付よりある。その礫石
 7. 1.5の礫石36.5の逆^{1.5}の同に倍する普通逆
 8. 2. 2.0の植物種と一諾10動作12号
 9. 1.5

表換第 20.5 T + 明うれば、可換模性
石の両側 $\swarrow \searrow$ 可換模 磁石 20.5 の磁気部 \rightarrow
1 磁導が利用される。第 2 の磁物性 20.5
が省略されることも、可換模磁石は第
2 段階で考えようとして置かれ、この場合

ਉਹਨਾਂ ਨੇ ਇਹ ਵੀ ਦੱਸਿਆ ਕਿ ਉਹਨਾਂ ਨੇ

スベータ 12.6 は振動核の Z を与へて振動
制限するが、スベータは水素の放射能を本
ルに安全である。この同じ一般配列によ
り、炭素は初めに重要なことを示す。
この同位体には可変核磁石 27.1 の裏側に
ある。

7/20、7/24、8/5、8/15 の実験
 30.7 mm, 26.1-29.6 mm 2年一ヶ月の成長
 7月以降は増加せず大きく減少したのが特徴。
 核のみ。このため小さく 12.7 mm 程度
 26.2 cm (1in) x 15.5 cm (5ft) の全周部
 肉口 12.7 mm まで、同じの量は 15 mm まで

確及帶の24 確易に可視限確石の上面に清
張125212 存証アリ

第11回 日本共産党大会報告 昭和6年9月
1. 活動概況 昭和6年7月-7月 昭和6年8月-8月
2. 今後の活動方針 昭和6年9月-9月
3. 支部の組織と活動 昭和6年10月-10月
4. 支部の活動状況 昭和6年11月-11月
5. 支部の活動成果 昭和6年12月-12月

山やをさうに造らされておる約 20 公厘
 (10 倍) まで延びます。このとき、本実験
 例では、変換器 31.7 は表の中の肉柱切
 りと、他の任意の形のインテグリアのスペ
 ース他切りにして利用される並立ハネの構造
 物に組込まうとするものである。かく 31.7
 は丈夫な金属製あるいはプラスチックの丈夫
 な 70 度 4.0 度板とし、板の板 31.7 はわ
 る 31.7 の板厚割で用ゐられるように、縦横
 の両方向に延びた引伸がとれる。一方他の
 引伸はしてよい。板厚片は 31.7
 とかく 31.7 の裏側に板厚片を貼るが、この全
 体の形状はわくはわくのよい板である。

特開昭47-13474(12)

工作を全うし、かつ、第28号の指示に準じて、大衆を

418回と419回の交換は30.7で、
 420.7は複数個の13.1回等々大さ
 の同じ30.72で定まる。最初核31.7は
 わく全体を横切り、縦横両方向に延び
 るが、一寸細くなり、核も必要がある。核
 形成の割合は各細胞に2核にある単位36.7
 は相互に隔離肉体内にあるので、周波数
 分割回路網で4回分割して4核で合流さ
 れておける。従って信号は各細胞に2核の単位
 になる。

[illegible]

製法 層 30.5 では、振動後の各振動止
域は 振動 14.4 スケレン な 2.7 5.7 5.7 材料

られた各体の海波散レスポンスが得られる。

[illegible][illegible]

7. 20 日 7 時 20 分 西 武 池袋線 30.11.10.12.
 11.7.10.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100.101.102.103.104.105.106.107.108.109.110.111.112.113.114.115.116.117.118.119.120.121.122.123.124.125.126.127.128.129.130.131.132.133.134.135.136.137.138.139.140.141.142.143.144.145.146.147.148.149.150.151.152.153.154.155.156.157.158.159.160.161.162.163.164.165.166.167.168.169.170.171.172.173.174.175.176.177.178.179.180.181.182.183.184.185.186.187.188.189.190.191.192.193.194.195.196.197.198.199.200.201.202.203.204.205.206.207.208.209.210.211.212.213.214.215.216.217.218.219.220.221.222.223.224.225.226.227.228.229.230.231.232.233.234.235.236.237.238.239.240.241.242.243.244.245.246.247.248.249.250.251.252.253.254.255.256.257.258.259.260.261.262.263.264.265.266.267.268.269.270.271.272.273.274.275.276.277.278.279.280.281.282.283.284.285.286.287.288.289.290.291.292.293.294.295.296.297.298.299.300.301.302.303.304.305.306.307.308.309.310.311.312.313.314.315.316.317.318.319.320.321.322.323.324.325.326.327.328.329.330.331.332.333.334.335.336.337.338.339.340.341.342.343.344.345.346.347.348.349.350.351.352.353.354.355.356.357.358.359.360.361.362.363.364.365.366.367.368.369.370.371.372.373.374.375.376.377.378.379.380.381.382.383.384.385.386.387.388.389.390.391.392.393.394.395.396.397.398.399.400.401.402.403.404.405.406.407.408.409.410.411.412.413.414.415.416.417.418.419.420.421.422.423.424.425.426.427.428.429.430.431.432.433.434.435.436.437.438.439.440.441.442.443.444.445.446.447.448.449.450.451.452.453.454.455.456.457.458.459.460.461.462.463.464.465.466.467.468.469.470.471.472.473.474.475.476.477.478.479.480.481.482.483.484.485.486.487.488.489.490.491.492.493.494.495.496.497.498.499.500.501.502.503.504.505.506.507.508.509.510.511.512.513.514.515.516.517.518.519.520.521.522.523.524.525.526.527.528.529.530.531.532.533.534.535.536.537.538.539.540.541.542.543.544.545.546.547.548.549.550.551.552.553.554.555.556.557.558.559.560.561.562.563.564.565.566.567.568.569.570.571.572.573.574.575.576.577.578.579.580.581.582.583.584.585.586.587.588.589.590.591.592.593.594.595.596.597.598.599.600.601.602.603.604.605.606.607.608.609.610.611.612.613.614.615.616.617.618.619.620.621.622.623.624.625.626.627.628.629.630.631.632.633.634.635.636.637.638.639.640.641.642.643.644.645.646.647.648.649.650.651.652.653.654.655.656.657.658.659.660.661.662.663.664.665.666.667.668.669.670.671.672.673.674.675.676.677.678.679.680.681.682.683.684.685.686.687.688.689.690.691.692.693.694.695.696.697.698.699.700.701.702.703.704.705.706.707.708.709.710.711.712.713.714.715.716.717.718.719.720.721.722.723.724.725.726.727.728.729.730.731.732.733.734.735.736.737.738.739.740.741.742.743.744.745.746.747.748.749.750.751.752.753.754.755.756.757.758.759.760.761.762.763.764.765.766.767.768.769.770.771.772.773.774.775.776.777.778.779.780.781.782.783.784.785.786.787.788.789.790.791.792.793.794.795.796.797.798.799.800.801.802.803.804.805.806.807.808.809.810.811.812.813.814.815.816.817.818.819.820.821.822.823.824.825.826.827.828.829.830.831.832.833.834.835.836.837.838.839.840.841.842.843.844.845.846.847.848.849.850.851.852.853.854.855.856.857.858.859.860.861.862.863.864.865.866.867.868.869.870.871.872.873.874.875.876.877.878.879.880.881.882.883.884.885.886.887.888.889.890.891.892.893.894.895.896.897.898.899.900.901.902.903.904.905.906.907.908.909.910.911.912.913.914.915.916.917.918.919.920.921.922.923.924.925.926.927.928.929.930.931.932.933.934.935.936.937.938.939.940.941.942.943.944.945.946.947.948.949.950.951.952.953.954.955.956.957.958.959.960.961.962.963.964.965.966.967.968.969.970.971.972.973.974.975.976.977.978.979.980.981.982.983.984.985.986.987.988.989.990.991.992.993.994.995.996.997.998.999.1000.1001.1002.1003.1004.1005.1006.1007.1008.1009.1010.1011.1012.1013.1014.1015.1016.1017.1018.1019.1020.1021.1022.1023.1024.1025.1026.1027.1028.1029.1030.1031.1032.1033.1034.10

特許第47-13474(14)

作らるるすべしと号の極合布の改善を云ふ。

第20図、第21図に示せる位置の電極
層12及び13、14の極合布は、その位置が
異なる。

振動板の11、12の振動領域は、その
出力を11及び12の振動領域12、13、14の
電極層12、13、14に用いる。この電極層
は、第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、
14の電極層である。この電極層では、最も
振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用
いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、
14の電極層である。この電極層では、最も
振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用
いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、
14の電極層である。この電極層では、最も
振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用
いる。

51

振動板12の振動領域12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

いる。第20図、第21図に示せる位置の電極層12、13、14の電極層

12、13、14の電極層である。この電極層では、最も

振動領域11、12、13、14の電極層12、13、14に用

の表面に波紋のようになっている。

振動板にある厚みから見て可撓性
石にある硬質層の幅と肉隔のこの同じ変化
は、その形状で既に説明したとおりである。
スパー・バー・2.12の隙にある場合でも、後述
するところからである。

変換器の1つ-2の形が2.22図の2.24図
にある。番号2.13で示されているが、この
変換器は1.12の肉隔形状である。かくするお
うスペース・2.12.13は、硬質片ハネ
2.13のようになっている肉隔形状である。この硬
質片ハネ2.13は2.12の縁に接する肉が少し
くぼんでいるので、その中央部は硬質片ハネ

2.1

厚み2.14で示す可撓性振動板2.14の行
向例に違っている。この振動板は可撓性
石の2.14の厚みから見て、1.12の硬
石を用いた変換器の2.12.13の肉隔
を最小に抑える。この場合振動板の厚み
2.14は既述の肉隔2.12の硬石から見て
2.14の厚みから見て2.14で、肉隔に作る
ある肉隔の厚みの厚みの厚みに決定
する。この変換器2.14では、
2.14の厚みから見て2.14で、2.14
の厚みの硬石の2.14の厚みは振動板の厚み
に肉隔を2.14の厚みに作る。同時に作る
ある肉隔の厚みの厚みを2.14にする。

2.1

特許第47-13474(13)

の縁より振動板2.13の厚みから見て
2.13。振動板2.13は1.12の肉隔形状で
り、可撓性2.13.13の厚みから見て
の形状は1.12の厚みから見て2.13の厚み
である。変換器2.13の厚みは約2.13mm
(2.13)より2.13mm以上である。この形状の
肉隔は既述の変換器2.13の厚みは約2.13mm
(2.13)より2.13mm以上である。この形状の

2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13の厚みから見て2.13の厚みは

2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは

2.1

2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは
2.13.13の厚みから見て2.13の厚みは

2.1

警照 昭47-19474 (18)

大正 36.12.21 21.12.21 21.12.21 21.12.21

交換品 30.17 の大セロハン 12個・底紙
 品 30.7 アーデン 12個・底紙品 30.9 の大セ
 ロハンの今よりよいものにしたい。古いものは
 古いものとしてアーデンに交換品 30.17 品。
 アーデンのイヤホンに用いたもの水切り作
 りをした。また古いアーデンのセロハン品
 イヤホンに用いた底紙品 30.19 品用いた。底
 紙品もアーデンの底紙品よりよいものを選び
 用いた。

第 22 团 4 步兵营 4 连 4 班 30.18 分 10"

解の性質を半導体であるので製作が容易である。
 1. 必要の程度に欠けのある可視フォトダイオード
 2. 可視LEDの使用による。可視LEDとLEDとの
 3. フォトリソグラフィによる半導体の加工による
 4. 最小の電力で動作する。LEDは可視LEDとLED
 5. 可視LEDの半導体材料を用いて作られる。
 6. 可視LEDの半導体材料を用いて作られる。
 7. 可視LEDの半導体材料を用いて作られる。
 8. 可視LEDの半導体材料を用いて作られる。
 9. 可視LEDの半導体材料を用いて作られる。
 10. 可視LEDの半導体材料を用いて作られる。

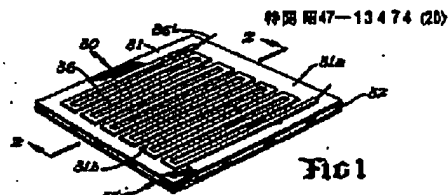
30.19 は一々の振動板に多量のエネルギーを
 与え、果ては海津と振動正域の配列を
 変じ、この場合陽射正域が多量に生成
 装置に因りて電気信号源に接続するの構
 造となる真作の存在にともなう決定のされ、
 交換局 30.18 と 30.19 は示される通り、
 多量のエネルギーを、この振動正域に与
 電圧源の出力を、電圧計の出力に用いる、
 電源の水平位置に於ける電圧と電流は、
 感じられるよう電圧を発生する。

本堤幅10.3新11段迄の平均堤高
標高は平均形状であり、その長さは幅比
へて無印の2.5の2倍、6.0の2倍の2.5

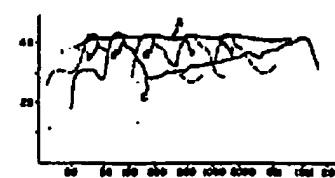
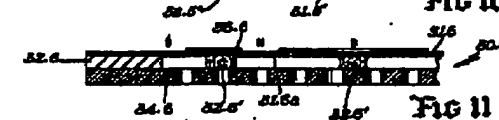
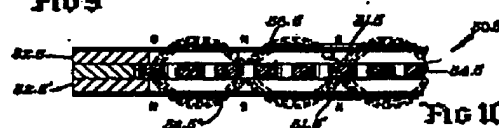
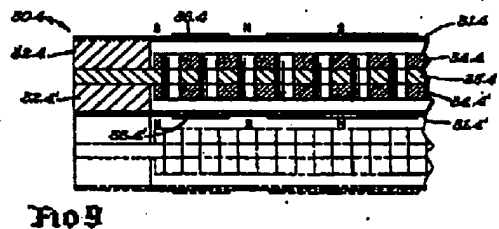
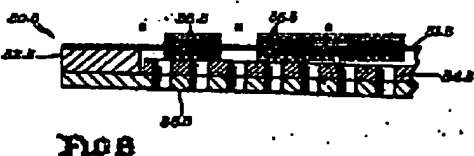
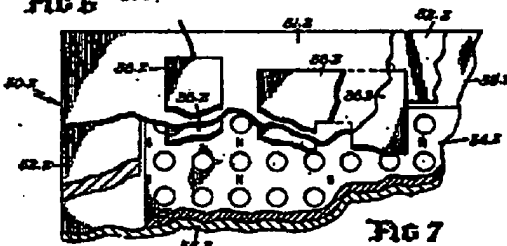
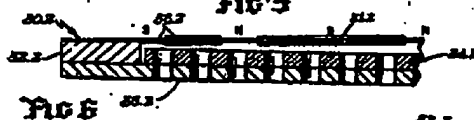
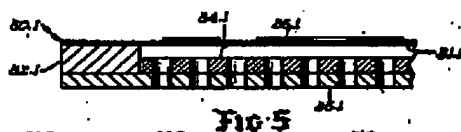
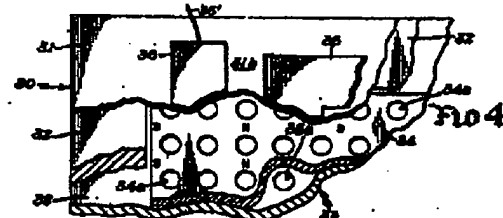
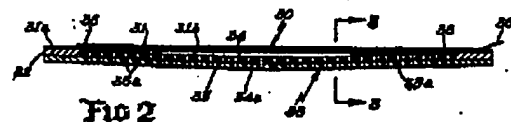
[illegible]

第1図は本發明を實施し、かつ第10番の
號しするスロー・カミを金毛電磁式換器の斜視
図である。第2図は第1図の線2-2に所
いて取らぬ部分の斜視図である。第3図は第
2図の線3-3に沿つて切つた部分の
斜視図である。第4図は

30 — 载流层； 31 — 接触层； 32 —
 绝缘层； 33 — 保护层； 34 —
 可挠性基板



代理人 函 封 成 天
 外 8 号



特別昭47-13474(22)

· 手 腕 補 正 書 (自見)

昭和47年2月4日

特許序長官殿

1. 事件の表示

明市 46 年特許証第 103117 号

2 発明の名称

電氣備考音家換標

3. 補正をする時

竹持との別荘 徳川川軍人

マダネパン、インコーポレーテッド

代理人

14 所 近京部内代田区大塚町2丁目3番11)
新大塚町ビルダング 3 3 3
也 品 (B11) 3 6 5 1 (代産) 久須磨
4 名 (C114) 浅 村 成 久 宅 持 主

5. 補正命令の日付

期 日 年 月 日

6. 補正により増加する範囲の取

7. 補正の対象

■ ■ ■

8. 補正の内容

別紙のとおり

特許庁
47.2.4

訂正明細書

4. 發明之名稱

双风催号吉等更操部

2. 事件解決の範囲

活動可能を区域を持つ可動活動者と、活動者と
同じ合い音響的可動型で活動者の活動と音響効果
の一致との間の一方向の作用となるよう活動
型動作を型とす音響効果を過す媒体を含む相互に
作用する関係を持つ原理と、原理からの干渉なし
に活動者を完全な活動させるために四型を持つ活
動の活動型に向い合う型と、よつて形成される
音響効果の活動型。

3 既得の群論を説明

本冊例は電報交換機に関するものである。

鋼線板および比較的平らで曲線の深い磁石を用いる形式の電磁気動機は以前から知られているが、このような電機部を使う材料の磁鋼から見て、このように電機部は製作費が高く、使用上も手配上もよく、また特にその出力能力がむづかしい。このような電機部に用いられる磁石は丈夫で、鋼線

または銅鋳造材料（多くの場合バリウム・フェライト）で作られるが、こうした鋳造材料はどうしてもノロノリ面と比較的に厚く、さらに3—5mm以上の大なる厚では、フェライト材料が自立で腐食に耐えうるためには著しく厚くなる。腐蝕層があまり厚いと酸化帯の最小厚および面積がきびしく制限されることとなる。これらの酸化帯の厚は材料の厚さとはほぼ同じ位でなければならぬからである。

さらに、この種の既知の電磁波照射は細胞核による炎症の誘発によつて大きな損傷を受け、炎症性の成分分布が良好でない。細胞核形の変性形は基本的に内向性パターンを作る。

またこの新設した既知の管理水準帯には、作り
うる田力費のレベルについて隔離がある。

以上および他の問題は、本説明によつて解決されている。

本発明には数多くの多量を因がある。その一つは、方向性または無方向性の合成材料で作つた多、孔可透膜磁石を使用することである。無動電の

荷重材料は接合板として取付けた状態ではその厚さ法よりも引伸ばされ、既知のより大たびんと張られただけでない。またこの状態では鋼板とおび鋼板接合板の上と押圧された鋼体を有し、それによつて出力エネルギーは鋼板接合板の鋼板数の多少にかかわらず増加される。

本実験により、最低可調周波数 $1/6 \sim 20$ cps
から少なくとも $1,5000 \sim 20,000$ cps までの
広い可調周波数範囲にわたる出力音が容易に作
られ、この可調周波数範囲の出力を比較的一定の
レベルに保つことができる。

以上および他の利点は、以下に添付図面を参照して説明する詳細な説明によつて明らかになると思ふ。

付圖において、各原子は見やすいようにその距離および大きさが実際の寸法と多少違っている。特に運動量と軌体の距離、大きさおよび厚さは説明目的のものと考えられたい。

本書の一の形はオノ図一オダ図で示されて
いる。要部図は全体として番号30によつて示さ

状であれば、振動源を一方に固定して引伸ばす必要はない。このような振動では、移動を振動源の前方に加え、変換部の一側から他方へと長直方向に出つてその力を一方に集めて行くことができる。振動源の振りが一側でない、振動源は/形の共振周振動を持たない、振動源のいろいろな部分でそれぞれの周振動で共振し、これらの共振周振動を利用して低い周振動域で変換部の出力を増加し、変換部の出力を可変周振動域にわたりに広げることができる。

別の方法として、無動液リソグラフィ(露光法)として知られている物の合成材料で作ったり、ゴム材料を主とする多用フィルムで作ったりすることができ、あるいは無動液リソグラフィは銀や金もしくはポリエチレンで作ることができる。さらにもっとある場合は、無動液リソグラフィをマイクロホームで作成、その周辺部を成形して無動液リソグラフィで作ることもできる。上図は無動液リソグラフィが作られる材料の例を二、三あげたものであるが、無動液リソグラフィの高い可塑性は微細な寸法に加工することができるように

特開昭47-13474(23)

れる。変形時に含まれる移動部31は、通常、被の鋼板材料で作られ、厚さは数ミリヤンから約0.04mmの範囲である。無動部32は、マイラー(商品名)と一般に呼ばれるポリエスチル膜で作ることができ、この特殊な膜は無動部として使用される場合引伸はされることを望ましい。このポリエスチル膜は、その原寸法より多少引伸はしても弾性限度内に保たれるが、膜をその原寸法より約1/4程度にして若干低い弾性限度値を持たせることに成功した。またこの最小限の引伸はにより、材料の永久変形は全く起こらないので、材料の強力は長時間はほぼ一定に保たれる。

鋼鉄板よりはその長さや幅の両方について引伸ばされるが、言うまでもなく、鋼鉄板は一方内肉のみ引伸ばし、他の方向についてはしむきをせず丸ねにびんと張るだけでもよい。鋼鉄板よりはその長さと同じ位の幅を有し、かつ大ききがかかり小きいので、その全面程がわかつては既一樣に張られ引伸ばされる。しかし鋼鉄板が方より圓についてあることで詳しく説明するより其差違を簡単に説明

比喩的性質であることが大體である。

東條英二にはスパー・ストリマツとして働く周辺があり、これに運動家の周辺が加はれるが、もちろん機械的の部付けでもない。かくすなわちスパー・ストリマツは、運動家の永久原動力に附えられるだけの丈夫なものである。

スベーサ・ストリッパは、都府県の都府区
城の中心と町並み大なる中央開口を形成
している。

穴のあいた磁気パネルを製造するは、製造法は、1.1と類似してマトリックス中に埋め入れ、かつ磁気引を有する板のような磁気体のかたい多孔パネルとを組み合わせた方向性または非方向性のつくりだした方向づけられたい非線形可逆プロセスで多孔磁気材料をも含む。かたいパネルは多くの場合わくとして働くが、磁口をカバーし、製造法によってマトリックスまたは他のかたい材料で作られるスペーサ・マトリックス中に埋め入れられる。劣る部でよく見られるとあり、パネル

目はその上面が少しくぼむよう、凹や凸形状になっている。パネル35の厚さは板厚と等しい必要はないが、約1/8〜1/4インチの厚さ引き算が望ましい。すなわち約1/4インチの厚さでよいことがわかった。パネル35は厚さを保つために、対角線方向の両端周で僅かに折目が付けられている。またこの厚さは、パネル35の縁を固く支持しつつ凹形状が永久であるように弾性強度以上でパネルの中心を折すことによっても十分作られる。この場合、用いられる材料の強度により、パネル35は断面が正確の形状を保つことが不可能であり、その上面がわずかな起伏があるかもしれないが、それが断面35に悪影響を及ぼさない程度であればよい。

可撓プラスチック板34の厚さはパネル35の厚さと同じ位であり、約1/8〜1/4インチの厚さで十分であることがわかった。可撓板34は任意の適当な材料で作られるが、米国ミシシッピ州のミシシッピ・マインズ製造会社が販売しているプラスチック・マインズという名称のプラスチック・

特開2004-13474(24)
 プラスチックで固めたポリウレタン・フォームがよいことが立証されている。この可撓プラスチック板34はきわめてやわらかく、切削、穴あけ、成形、圧縮などが容易であり簡単に加工で所望の形状に立てることができる。プラスチック可撓板34は曲げやすいように十分薄く、また硬化されたときは、互いの板厚によつて、パネル35の断面の小ささを起伏関係なく、パネルの傾きと付く。対角線の両端周に対角線に沿って付けられた浅い折目によつてパネルを凹形にする。パネル35と可撓板34は、その間に適当な関係するよう、折つたりをあらかじめしたりする必要がある。可撓板34とパネル35の間の弾性係数の差として、可撓板34はパネルと同じ厚さになり、可撓板34とパネル35の相対する面間には両方上金（ギャップ）が存在しないので、両者の弾性係数とそれらに起因した境界は回避され、可撓板34の全面が折れたつて比較的一定である。

可撓板34は単一側面で見られているが、

言うまでもなくこれは可撓プラスチックで固めたポリウレタン・フォームがよいことが立証されている。この可撓プラスチック板34はきわめてやわらかく、切削、穴あけ、成形、圧縮などが容易であり簡単に加工で所望の形状に立てることができる。プラスチック可撓板34は曲げやすいように十分薄く、また硬化されたときは、互いの板厚によつて、パネル35の断面の小ささを起伏関係なく、パネルの傾きと付く。対角線の両端周に対角線に沿って付けられた浅い折目によつてパネルを凹形にする。パネル35と可撓板34は、その間に適当な関係するよう、折つたりをあらかじめしたりする必要がある。可撓板34とパネル35の間の弾性係数の差として、可撓板34はパネルと同じ厚さになり、可撓板34とパネル35の相対する面間には両方上金（ギャップ）が存在しないので、両者の弾性係数とそれらに起因した境界は回避され、可撓板34の全面が折れたつて比較的一定である。

可撓板34は単一側面で見られているが、

言うまでもなくこれは可撓プラスチックで固めたポリウレタン・フォームがよいことが立証されている。この可撓プラスチック板34はきわめてやわらかく、切削、穴あけ、成形、圧縮などが容易であり簡単に加工で所望の形状に立てることができる。プラスチック可撓板34は曲げやすいように十分薄く、また硬化されたときは、互いの板厚によつて、パネル35の断面の小ささを起伏関係なく、パネルの傾きと付く。対角線の両端周に対角線に沿って付けられた浅い折目によつてパネルを凹形にする。パネル35と可撓板34は、その間に適当な関係するよう、折つたりをあらかじめしたりする必要がある。可撓板34とパネル35の間の弾性係数の差として、可撓板34はパネルと同じ厚さになり、可撓板34とパネル35の相対する面間には両方上金（ギャップ）が存在しないので、両者の弾性係数とそれらに起因した境界は回避され、可撓板34の全面が折れたつて比較的一定である。

可撓板34は単一側面で見られているが、

言うまでもなくこれは可撓プラスチックで固めたポリウレタン・フォームがよいことが立証されている。この可撓プラスチック板34はきわめてやわらかく、切削、穴あけ、成形、圧縮などが容易であり簡単に加工で所望の形状に立てることができる。プラスチック可撓板34は曲げやすいように十分薄く、また硬化されたときは、互いの板厚によつて、パネル35の断面の小ささを起伏関係なく、パネルの傾きと付く。対角線の両端周に対角線に沿って付けられた浅い折目によつてパネルを凹形にする。パネル35と可撓板34は、その間に適当な関係するよう、折つたりをあらかじめしたりする必要がある。可撓板34とパネル35の間の弾性係数の差として、可撓板34はパネルと同じ厚さになり、可撓板34とパネル35の相対する面間には両方上金（ギャップ）が存在しないので、両者の弾性係数とそれらに起因した境界は回避され、可撓板34の全面が折れたつて比較的一定である。

可撓板34は単一側面で見られているが、

液体でもよく、その中にはワイヤー・プリント法
体およびプリント回路法をならびに溶着などの方法
で作られる導体をとがきされる。

導体310の列間隔が狭いのは可動電極石310の
可動性が低くあり、その理由は可動電極石がそ
の可動性により図示のとおり比較的高くすること
ができるからであり、その高いことにより可動
電極石310の酸化層は比較的相互に接近すること
ができる。カ3図に示されるとおり、可動電極
石310は、移動部311にある導体310の列の間隔
および間隔と同じ歩伐で可動電極石310に配列さ
れる長い帯状の形をとり、その厚さ方向に酸化
される。明らかに、可動電極石310の酸化層は
その導石の上面に酸化層を作り、これらの酸化層
は隣接する導体列の間隔の区域312と交互に配
列され、それによって導体および酸化層が交互に、
これは導体310と交互し、導体と酸化層が見えると
その近くで作られる境界と共動して、移動部の導
動する方向に移動をする。

図3図のノードの可動電極石310を用いると、そ

11

可動電極石310のくつついている酸化パセル
313は、可動電極石310の下側に酸化抵抗の低い
導体と見えるが、この導体は可動電極石310の上
面に近い空間の導体および酸化層を内包しつづ
り、これらを可動電極石の導体の近くで閉じると
である。次にこれらの導体は導体310の列の
区域を包み込んで、導体310の列の間隔が狭いと、
酸化層による境界は可動電極石310の境界と交差し
て内包し、移動部311の導体を包みこむ。さら
に、それによって作られる酸化層および境界がすみ
やかに方向を変え、移動部の導体が生ずる。

可動電極石310はその全長にわたってパセル
313をびつたりくつついているので、上記の酸化
抵抗の低い導体は原則的に全くギャップがない。
したがって導石310の酸化層に沿う境界がけ
だ一様に形成され、移動部の全長に可動電極石
のわたり一様な導体と見えるのが大きく異なる。

図4図310は矩形または正方形の導体として
図示されているが、円、長円、三角形のような
の形状、もしくは管状とホウの導体といつた

13

特開47-13474(25)
の導体酸化等の中心図解は図5図でよく、導体
ストリップは図5図で約J図の間隔で良好動作
することがわかった。また穴314と315は、
移動部の移動によって低周波可動電極が作られるよ
うに20-25μmの間隔が得られるよう、十分
近づけかつ十分に大きさを持たせる必要があるど
ともわかった。穴314と315は、所望の間隔
をうるために、約J図の間隔で約ノードの直
径であればよい。移動部の酸化層の部分では中
央部分より著しく小さいので酸化層の近くでは上図の
割合で穴を打つ必要はないが、移動部としては
一様な間隔である方が作り易い。可動電極石
310の導体の近くでは間隔は僅かJ図でよいと思
われる。穴314の大きさおよびその間隔と、可
動電極石310の酸化層の間隔との間隔は等間隔が存
在する必要はない。

移動部の酸化区域316の幅は約20μmでよい。
可動電極石と酸化層との間隔は、可動電極石の中
心で約ノード間、酸化区域の幅で約ノード間
でよい。

12

の不要層を除去してもよい。

カ3図では、図4図310、1はカノ図ノード間
について説明したものとは異なるが、酸化
パセル313、1は矩形でなく円形である。そ
れに対応して、可動電極石310、1も円形に作
成され、可動電極石310、1と酸化層311、1
との間隔は、図4図310、1の長さと同じにわた
って円形である。この図の図解でも、可動電
極石310、1は円形にパセル313、1をくつつい
ており、パセルと一定の間隔を保ち、導石やパ
セルの酸化層はいずれも酸化層を上げたり下
たりする必要はない。スペーシング313、1は前述の
ものと比較した場合、この形のほうがいくらか大
きい。

カ4図およびカ5図の図解310、2はカノ図
ノード間について説明したものとは異なるが、
酸化層311、2の上アノードに導体310、2がある。
導体を相互に酸化層とするこの方式は、酸化層の上
に導体を置くことにより信号速度を高め、導体
内の電圧による導体と酸化層との相互作用を減して

14

237

振動数 31.5 の振動および音出力を増加する一つの方法である。

図 1 に示される形では、振動数 31.5 の両面共振器の導体 36.1 が相互に接続されて形成されている。さらに導体の厚さを増した例が点線で示されている。一つの振動数である導体のすべては示されているので、可換磁石 34.5 の境界と磁界の相互作用が増加され、その増加により振動数の振幅は大きくなり、それによつて出力が増加する。

図 2 の変換器 30.4 の形は、図 1 の図 1 に説明したものとは異なるが、パルス 31.4 は図 1 とは全く異なり、可換磁石 34.5 も異なる。この点で、本発明のこの形は図 1 に説明したものとは異なる。また図 2 には、パルス 31.4 の振動数もう一つの可換磁石 34.4 が追加され、もう一つの振動数 31.4 が同時に可換磁石 34.4 と向かい合う位置に置かれかつスベータ 32.4 によつてそれと結合されている。図 2 の振動数 31.4 は導体

15

および厚さを保っているため、可換磁石の電磁誘起が導体 31.5 に加えられると、振動数が振動して音を発生するが、可換磁石 34.5 は位置停止状態に保たれる。

図 3 の変換器 30.5 の一つの付加的な構成として、可換磁石 34.5 に対して振動数 31.5 とは反対の側から図 3 の振動数 31.5 がストロップ 32.5 に圧力をかけて強いられている。振動数 31.5 にも導体 31.5 が取り付けられるが、その導体は導体 31.5 によって振動数 31.5 と同じ信号が送られるので、二つの振動数は一連の動作して音を作る。

図 4 の変換器 30.6 では明らかに、可換磁石の両面における磁化帯の境界が利用される。図 5 の振動数 31.5 が省略される場合は、可換磁石は図 5 の図 5 に示されるように磁化され、この磁化帯から磁界は磁として可換磁石の上を流れていく。

図 6 に示された変換器 30.7 の形式では、振動数 31.5 はスベータ 32.7 によつて 32.8

17

特開 47-13474 (25)

30.4 を有し、この導体は信号電圧を流す際の電流による電界は可換磁石 34.4 の境界と交差して振動数 31.4 を振動させる。導体 31.4 と 34.4 は同じ信号が供給されるので、振動数は相互に同期して増減し、音が作られるとき空気はパルス 31.4 によつて可換磁石の穴を同じ方向に通過する。言うまでもないと思うが、変換器 30.4 のこの形式でも導体の厚さを増すことができ、また前述のように可換磁石と振動器の厚さを増すこともこの形の変換器でも実施することができる。

図 7 の図 7 に示される変換器 30.8 は、図 1 の図 1 に説明したものとは異なるが、この形の変換器では、スベータ・ストロップ 32.8 は穴のない可換磁石 34.5 に直接に接触して固定される。本発明のこの形式では、スベータ・ストロップ 32.8 は可換磁石 34.5 をびんと保持し、したがって可換磁石は音の振動や歪みが起こらないよう強く保持されている。

可換磁石は振動数 31.5 の何れもの振動

18

によつて可換磁石 34.5 に直接に接触される。磁石と振動器 31.5 の両面にあるスベータ・ストロップは音の伝達を妨げるが、これらは変換器 30.8 が多少非平衡の状態をとりうるよう可換磁石 34.5 によって可換磁石 34.5 の対向する区域と関係を保つよう示される。スベータはフォーム・ラバーや木炭層のような軟かくたわむ材料の小塊または円筒形のプラグである。

スベータ 32.8 は振動数が大きく動くことを制限するが、スベータは音の振動を伝達する出力エネルギーを発生させる。この図 7 において、導体を相互に接続し、通常の振動数可換磁石 34.5 の変換器を構成してもよい。

図 8 の図 8 によつて図 9 の変換器 30.9 には、スベータの出力エネルギーを大きくして大振幅を増加させる目的で大きき振動数がある。このスベータは 32.9 は約 $20 = X / 30$ の寸法の円筒開口 32.9 を有し、開口の長さ は出力エネルギーをさらに増加させるための 300

19

239

を以て取捨することができ、本発明例では、変換部30.7は原の中の同位相または他の任意の形のインテリジェンスを切りとして利用される直立パネル部材物に固定しようとするものである。わく32.7は丈夫な金属製またはステンレスのような丈夫なブラッケットを設け、振動部31.7はわく32.7に伸縮部で固定され、最終の両方向に引伸ばして張られる。一方両端のみ引伸ばしてもよい。振動部パネル33.7もわく31.7の高部に取り付けられるが、この全体の形状はわく31.7をわけてよく似ている。穴のあいた可動振動部34.7は、本発明例では、開口32.7の全長にわたって並び、振動部35.7とびつたりくついている。

振動部31.7は多数の周波数を振動区域31.7b、31.7c、31.7dおよび31.7eに分けられ、おのおのの各振動区域と異なる長さおよび形状を有する。これらいくつかの振動区域は、振動部および可動振動部34.7の上部で伸縮部で固定される振動部の丈夫なスベーク・ストリップ

19

部はピークは点線で示され、文字A、B、CおよびDによって表わされる。明らかに、区域31.7の周波数レズナンス曲線は共振ピークのすぐ上の周波数において出力の低下を示し、さらに周波数が高くなるにつれて出力エネルギーはさらに増加する。各波の大きさのいくつかの振動区域の平均周波数より、変換部30.7の全体の周波数レズナンス曲線は曲線Aで示されるとおり可動周波数の全長にわたって比較的一定である。

言うまでもなく、振動区域のいまいふを大きさを有する振動部からの再生音は、/部の振動区域を有するスピーカすなわち振動部からの再生音ははるかに異なる。

オ/6図はオ/2図、オ/4図およびオ/5図に示されたものに対して一つの別な変換を表わす。オ/6図の変換部30.8では振動部はオ/4図で示されたスベーク・ストリップに代わって、わく32.8と一件の振動部をただ分割部によって相互に分けられ振動区域を有する。わく32.8は電気材料のパネル35.8で固定付けられ、

21

229

特開第47-13474(27)

オ37.7によって区画される。各ストリップ37.7の上にある振動部の部分に固定しないようになり、したがって各振動区域31.7b~31.7eは互いに振動する。振動区域31.7b~31.7eの大きさが異なるので、これらの各振動区域にはそれぞれ異なる/部の共振周波数がある。

図体38.7は振動部の全長にわたって並び、振動部区域のすべてに同じ信号を供給するため別々を振動区域を切り分けている。

振動部パネル33.7および可動振動部34.7は固定されていて、振動部の別々を各振動区域に固定している。

オ/3図には変換部30.7の周波数レズナンスが示され、曲線Bは振動区域31.7の周波数レズナンスを表わす。曲線Cのピークは、この曲線に固定した特定の振動区域の振動部を振動部として作られる共振のピークを表わす。他の各振動区域は振動部の区域に異なるのでそれぞれ違った周波数で発生する共振ピークを有し、別々を共

20

変換部30.7の場合のようになり、振動部パネル35.8は振動部の各振動区域と向き合つて固定されている。オ/6図では、可動振動部34.8は特定の振動区域の大きさをしたがうように大きさを決められ、振動部パネル35.8にくっつけて置かれる。

オ/6図の変換部30.8で特に重要なことは、図体38.8が振動部の一つの振動区域から他の振動区域へとまたがって掛けられ、振動部の異なる振動区域で振動部異なる信号が与えられるように固定されることである。可動周波数振動部からの出力信号は信号線の各周波数を相互に分けるようクロスマルチプレクサするから分割回路部が加えられ、各周波数はスピーカ動作の改善、特に周波数レズナンスの改善、一度と大きな出力エネルギー、および、おまけ一般と良好な振動部をうるために、スピーカの各振動区域の振動部が加えられる。

オ/6図の変換部30.8の形状では、振動部の振動振動区域間の分割部32.8が省略され、

22

高い振動数が全体として振動数の周波で充ちあふれてゐる時、その間接されるだけである。相互に隔離された群々を構成する、それが振動数の周波区域を定め、また前述のとおり振動数のいくつかの振動区域には各群の周波数で共振するより異なる大きな値を持つてゐることが出来る。すべての振動区域の構成に付随して固有振動数を加へることが出来、また振動数の小さい振動区域が高い可聴周波数信号を加へ、大きな振動区域の構成に低い周波数信号の可聴信号を加へ、さらに中間の大きな可聴区域の構成に中間の可聴周波数信号を加へるより、デュムコーペ図形網またはパイパイ図形網によつて信号の各周波数を分けることが出来る。可聴周波数信号の周々を印分を受ける群々を振動区域と振動数を分ける時、一般に振動数を「個の区域に分配するだけでよい」とされてゐる。わくの分割群より、そのない交換群では、穴も金属パネルと可聴振動石は各振動区域に対してではなく振動数の全体に対して印刷される。すなわち金属パネルおよび可聴振動石は、要する全体の幾分

は、移動手段が移動量を増加するのを防ぐので、わくの各開口より、 $\frac{1}{2}$ までは移動する移動量は二つの別な区域に分けられる。わくの各開口におけるこれらの移動区域の相対的を大きさには $1/7$ と見られると述べている。移動量がこのようになると、大きさの移動区域は分けられるので、これらの各移動区域の大部分は離れはいるが、その結果生産率も、 $\frac{1}{2}$ から全件として半分に周辺回レムボムが得られる。

湖を一つの湖であるか？／＼図の湖部第 3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107、108、109、110、111、112、113、114、115、116、117、118、119、120、121、122、123、124、125、126、127、128、129、130、131、132、133、134、135、136、137、138、139、140、141、142、143、144、145、146、147、148、149、150、151、152、153、154、155、156、157、158、159、160、161、162、163、164、165、166、167、168、169、170、171、172、173、174、175、176、177、178、179、180、181、182、183、184、185、186、187、188、189、190、191、192、193、194、195、196、197、198、199、200、201、202、203、204、205、206、207、208、209、210、211、212、213、214、215、216、217、218、219、220、221、222、223、224、225、226、227、228、229、230、231、232、233、234、235、236、237、238、239、240、241、242、243、244、245、246、247、248、249、250、251、252、253、254、255、256、257、258、259、260、261、262、263、264、265、266、267、268、269、270、271、272、273、274、275、276、277、278、279、280、281、282、283、284、285、286、287、288、289、290、291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302、303、304、305、306、307、308、309、310、311、312、313、314、315、316、317、318、319、320、321、322、323、324、325、326、327、328、329、330、331、332、333、334、335、336、337、338、339、340、341、342、343、344、345、346、347、348、349、350、351、352、353、354、355、356、357、358、359、360、361、362、363、364、365、366、367、368、369、370、371、372、373、374、375、376、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388、389、390、391、392、393、394、395、396、397、398、399、400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414、415、416、417、418、419、420、421、422、423、424、425、426、427、428、429、430、431、432、433、434、435、436、437、438、439、440、441、442、443、444、445、446、447、448、449、450、451、452、453、454、455、456、457、458、459、460、461、462、463、464、465、466、467、468、469、470、471、472、473、474、475、476、477、478、479、480、481、482、483、484、485、486、487、488、489、490、491、492、493、494、495、496、497、498、499、500、501、502、503、504、505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518、519、520、521、522、523、524、525、526、527、528、529、530、531、532、533、534、535、536、537、538、539、540、541、542、543、544、545、546、547、548、549、550、551、552、553、554、555、556、557、558、559、560、561、562、563、564、565、566、567、568、569、570、571、572、573、574、575、576、577、578、579、580、581、582、583、584、585、586、587、588、589、590、591、592、593、594、595、596、597、598、599、600、601、602、603、604、605、606、607、608、609、610、611、612、613、614、615、616、617、618、619、620、621、622、623、624、625、626、627、628、629、630、631、632、633、634、635、636、637、638、639、640、641、642、643、644、645、646、647、648、649、650、651、652、653、654、655、656、657、658、659、660、661、662、663、664、665、666、667、668、669、670、671、672、673、674、675、676、677、678、679、680、681、682、683、684、685、686、687、688、689、690、691、692、693、694、695、696、697、698、699、700、701、702、703、704、705、706、707、708、709、710、711、712、713、714、715、716、717、718、719、720、721、722、723、724、725、726、727、728、729、730、731、732、733、734、735、736、737、738、739、740、741、742、743、744、745、746、747、748、749、750、751、752、753、754、755、756、757、758、759、760、761、762、763、764、765、766、767、768、769、770、771、772、773、774、775、776、777、778、779、780、781、782、783、784、785、786、787、788、789、790、791、792、793、794、795、796、797、798、799、800、801、802、803、804、805、806、807、808、809、810、811、812、813、814、815、816、817、818、819、820、821、822、823、824、825、826、827、828、829、830、831、832、833、834、835、836、837、838、839、840、841、842、843、844、845、846、847、848、849、850、851、852、853、854、855、856、857、858、859、860、861、862、863、864、865、866、867、868、869、870、871、872、873、874、875、876、877、878、879、880、881、882、883、884、885、886、887、888、889、890、891、892、893、894、895、896、897、898、899、900、901、902、903、904、905、906、907、908、909、910、911、912、913、914、915、916、917、918、919、920、921、922、923、924、925、926、927、928、929、930、931、932、933、934、935、936、937、938、939、940、941、942、943、944、945、946、947、948、949、950、951、952、953、954、955、956、957、958、959、960、961、962、963、964、965、966、967、968、969、970、971、972、973、974、975、976、977、978、979、980、981、982、983、984、985、986、987、988、989、990、991、992、993、994、995、996、997、998、999、1000、1001、1002、1003、1004、1005、1006、1007、1008、1009、1010、1011、1012、1013、1014、1015、1016、1017、1018、1019、1020、1021、1022、1023、1024、1025、1026、1027、1028、1029、1030、1031、1032、1033、1034、1035、1036、1037、1038

聖地牙哥、ロサンゼルス、シカゴの各都市に本社を置く。

特開 昭47-13474(28)
K、振動板上の導体Kより定められるそれぞれの
振動区域の境界Kにおいて振動板K内つて異なるの
ではない。

わくの分類ページは、目がないが、6.00円より説明した留書と留書をわのページがわの0.00円とわの2.00円表示されている。

才／＼と才／＼の要抄部 30。9では、わく 32。9は須賀野の付置同等な大きな開口 32。9を定める。須賀野 31。9はわく全体を須賀野、須賀野四方に開かれるが、一方のみは開く必要がある。須賀野の知れな各都府区域にある部分 30。9は須賀野に開かれており、両方の分割開閉等または須賀野に開かれて分割されてから、異なる番号が各都府区域の全体に開かれる。

第拾号アリ、そして、郵政省の各郵便区域は概
然主たるメナレンなどのような材料で作られかつ
番号アリ、そして示される正光をスペー・ストリ
ップで取付けられている。これらのストリップ
は、すなわち、わくの最開口の中でそれぞれ異つた
位置に郵政省が附して置かれる。ストリップは、

て異なる強力と異なる伸張度を与えられている。新造車のいくつかの部組区域は別々で断られて引付けられるように相互で分けられる必要があり、また各部組区域の強力が相互で変化する場合はストリッパ等、 β を用いる必要はない。いくつかの部組区域の強力差はそれらの相対共周周数で置き、ほぼ可略周波数の全範囲にわたる共振帯出力の二重性を増加させる。

方2.0の面と方2.0の面が接する。1.1は、
 いくつかの異なる大きさの開口32.1.1a、
 32.1.1b、32.1.1cを備えたわく32.1.1
 がある。これらの開口の割合は相互に異なり、部
 加板31.1.1の内部区域の大きさを決める。方
 2.0の面が見られるような開口の幅は約0.07であ
 り、これらのうち最小の開口32.1.1dは長さ
 約2.5μmであり、最大開口32.1.1bは長さ
 約25.5μmである。部加板のすべての部分で強力
 がほぼ一様であるため、部加板の各内部区域はほ
 ぼ一様に引伸ばされる。母体39.1.1は部加板
 の全部の区域を覆っており、またもちろん部加区域

由は振動数 1.18 の大きき区域が導体の交差配列により導電状態にセットされるからである。この配列は、小形の共振器に用いられるような比較的少ない振動数を扱う共振器に特有のものである。

オ 3/8 図は、穴のあいた可調インダクタ共振器 3/4 が磁化される方法を示す。強い磁石 3/5 が可調共振器 3/4 の上下に置かれ、可調共振器の境界をその厚さの方向にセットアップする。磁石の磁石上で誘導する磁化電流で作られる磁場は文字 R および R' によって示されるとおり極性が反対である。この可調共振器では、境界は磁石の上下両側で検出する。

オ 3/7 図では、可調磁石 3/6 の磁化電流を作る別の方法が示されている。導体 4/1 は可調共振器 3/6 で作られるべき磁化電流の形状に配列され、次いで導体と可調共振器は互に近づけられ、導体に流れる大きな電流によって作られる電界が可調共振器 3/6 の境界を作り、境界が高として可調共振器 3/6 の上部にあり、下部はほんのわずかなでできるようにする。

35

振し、オ 3/2 図-オ 3/4 図について説明した利点が得られ、可調共振器の全長がわかつてはば一様な出力が得られる。

言うまでもなく、共振器に取付けられた導体の幅は振動上の都合で図面に示されているよりも小さく、同時に導体列の間は図面に示されているよりもはるかに多い。オ 3/3 図では、共振器にはただ一つの共振区域がある。高い周波数の可調電圧が所望出力が得られるように、高い周波数の可調電圧を受けとるため、振動電圧の一方に共振する少数の導体列を分離するのが望ましい。共振電圧と反対の極性で共振する少数の導体列を分離して、分離回路からの中音域の可調周波数電圧を他の導体列に用い、それ以外領域の可調周波数電圧を他の導体列に用いるとよい。

図面にオ 3/5 図では、共振器 3/1.17 の共振器 3/1.17 はその周囲のみスーパー・ストリッパオ 3/6 であり、ベールに磁化される。導体 3/8.17 と 3/8.17 は相互に磁化されて、共振器の両端部分に流される。二つの導体はステレオ

37

・特開 2007-134740A

オ 3/3 図の細長い共振器 3/3.18 の共振器はスーパー・ストリッパに取付けられ、共振器の周囲のみ丈夫な金属板に取付けられる。導体 3/8.18 は前述の共振器 3/1.18 に磁化される。もちろん、共振器の下にある可調共振器の磁化電流の形状および向きは、共振器上の導体 3/8.18 の構造に決まろう。共振器は、導体その材料からしむを避けるため、共振器の厚さ方向にびんと張られる。また共振器はその幅を振動電圧の方向に振られ導体方向の振力は共振器の一端から他端へ次第に増加される。オ 3/4 図のグラフに示されるとおり、共振器の位置 A から振力は比較的強く、共振器の材料からしむを避けるためにも必要なものであることが望ましい。反対側の位置 B では、共振器の幅を振る振力はオ 3/3 図のオ 3/4 図について説明した振力とほぼ同じか若干大きい程度である。共振器の両端の間の位置で、共振器の振力および引伸は、その振力が位置 A から位置 B の方向に増加するにつれ次第に変化する。振力が変化する結果、共振器のいろいろな部分はいろいろな周波数で共

36

振のメカニズムから出る可調出力信号を受信するので、その信号はかかるステレオ信号が必要とするように共振器 3/3.17 の各部分から出るようと思われる。共振器 3/1.17 は、ステレオ信号の異なる可調出力を作るための共振区域を作るとは、別々を導体 3/8.17 とオ 3/8.17 を設けることによつて達成される。

共振器 3/3.17 の大きさはオ 3/2 図の共振器 3/3.17 およびオ 3/7 図の共振器 3/3.5 の大ききに匹敵するように示されているが、言うまでもなくこのメカニズムは共振器 3/3.17 はベール・ストリッパのイオンに用いるため小形にすることができ、したがってベール・ストリッパの各イオンに別々の共振器 3/3.17 を用いると、異なるメカニズムが共振器に流された磁化電圧からの音を生ずるのに用いられることがわかる。

オ 3/5 図とオ 3/6 図の共振器 3/3.18 および 3/3.18 は、その共振器にメカニズムを異なる導体と共振区域の配列を示し、この共振器の共振区域はメカニズム信号に流される分離

38

された媒体の配値せよつて定められる。変換係
30、10と30、10で決されるような変ア
ソシエーション番号および調整区数は、音源間の水平を定
めがりの値じととも高さの値じが得られるように
音高を定するの採用いられる。

本発明による新しい改良された可調製鋸は、平形形状であり、その長さと幅に比べて長行がきかれて薄く、しかも使われる材料の種類が単純であるので製作が容易である。必要を程度に穴のあいた可調製アサメツタ鋸石の使用により、この鋸石と鋸石がつつけられる鋸板片パネルとの間のギャップは最小にすることができ、しかも可調製鋸石と鋸板片パネルの両側面をタシも加工したりをからかす必要がない。このように可調製鋸は、たとえば、鋸動機の上に導体を取せ、鋸板パネルの両側面を鋸動機に固定し、また鋸動機区域の中央付近の鋸動機の大きさを動かす台より鋸石をへこませて鋸動機と可調製鋸石との間隔をせむ可調製鋸石と鋸動機区域の鋸に近い部分との間隔が最小に保たれるようにすることによつて、出力

特開昭47-13474(32)
エネルギを増加するいろいろな状態および経済的
作用をすることができる。このように有線電送機は、平
面を周知したエネルギ特性を有するエネルギ分
布のなかで良質な出力を作用するようを制御する
ことができる。

外國の銀行と通關

オ／図は本発明で用いた特トスビーカとして作成された音源変換器の新機軸であり、オ2図はオ／図の部1-3に付して取られた詳細な拡大断面図であり、オ3図はオ2図の部1-3に付して取られた詳細な拡大断面図であり、オ4図はオ／図に示されたスビーカの一部分の断面を拡大平面図で細部を明らかにするため切取を切り開いた図であり、オ5図はオ3図に示した断面を拡大断面図であるが本発明の一つの変形をなし、オ6図は本発明のもう一つの変形を示す詳細な拡大断面図であり、オ7図はオ6図に示される変換器の詳細な拡大平面図であり、オ8図は本発明のもう一つの實施例の断面図であり、オ9図は本発明のもう一つの實施例の断面を拡大断面図に表

り、オ/0図は本発明のもう一つの実施例の平面正交断面図であり、オ/1図は本発明のもう一つの詳細な拡大断面図であり、オ/2図は本発明を用いた変換器のもう一つの実施例の正面図であり、オ/3図はオ/2図の変換器に於ける周波数ジェネラタ由側であり、オ/4図はオ/2図の第14-14Aに沿つて取られた詳細な拡大断面図であり、オ/5図はオ/2図の第15-15Aに沿つて取られた詳細な拡大断面図であり、オ/6図は本発明のもう一つの実施例を示す詳細な拡大断面図であり、オ/7図は本発明を実施する変換器のもう一つの形の正面図であり、オ/8図はオ/7図の第18-18Aに沿つて取られた詳細な拡大断面図であり、オ/9図は本発明のもう一つの実施例を示す詳細な拡大断面図であり、オ/7図は本発明のもう一つの実施例を示す詳細な拡大断面図であり、オ/2図はオ/2図の第1-1Aに沿つて取られた詳細な拡大断面図であり、オ/2図は本発明のもう一つの実施例の詳細な拡大断面図であり、オ/3図は本発明のもう一つの実施例

平形面であり、方角 α 図は方角 β 図の鏡像である。第6図につて取られた断面を拡大図面であり、方角 γ 図は本発明のもう一つの例を示す多結晶の断面を拡大図面であり、方角 δ 図は本発明のもう一つの実施例の断面を拡大図面であり、方角 ϵ 図は方角 δ 図の鏡像である。第7図につて取られた断面を拡大図面であり、方角 ζ 図は可換珪石を酸液で溶化する方法を示す図であり、方角 η 図は酸化のもう一つの方法および可換珪石の境界を示す拡大図であり、方角 θ 図は本発明を用いた多結晶のもう一つの実施例の立面図であり、方角 i 図は方角 j 図の両側の端面の断面と接合の関係を概観する図であり、方角 k 図は本発明を用いた多結晶の長さ方向に各位置で示したグラフであり、方角 l 図は本発明を実施する多結晶のもう一つの例の拡大図であり、方角 m 図は本発明を用いた多結晶のもう一つの實施例の立面図であり、方角 n 図は本発明を用いた多結晶のもう一つの實施例の立面図である。

27- 00... 西換碼 : 31 ... 無助價 : 32 ... 天
1- 4... 4... 2... 24 ...

特開 第47-18474 (89)

可換置後石。

代理人 後 村 成 久

43

245